

(2) 東北



東北地域では、景気は一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は底堅く推移している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

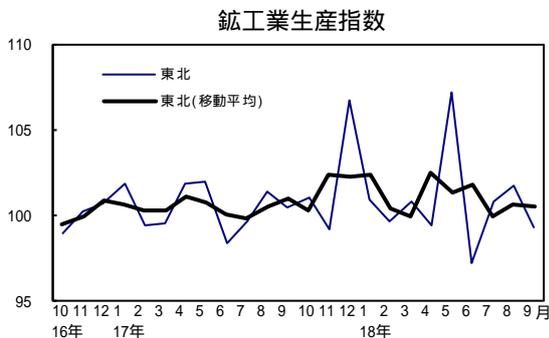
前回からの主要変更点

	前回(平成30年8月)	今回(平成30年11月)	
鉱工業生産	持ち直し	<u>緩やかに持ち直し</u>	
個人消費	足踏み	<u>底堅く推移</u>	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

7 - 9月期には、電子部品・デバイスは、スマートフォン向けコネクタ等の減少により減少した。はん用・生産用・業務用機械は、減少した。食料品・たばこは、減少した。情報通信機械は、カーナビゲーションシステム製造の海外工場へのシフト等により、カーナビゲーションシステムが減少したことにより、減少した。輸送機械は、平成30年北海道胆振東部地震を原因とする部品調達の不能に伴い乗用車や車体部品が減少したことにより、減少した。



(備考) 1. 2010年=100、季節調整値。東北の最新月は速報値。
2. 東北の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。

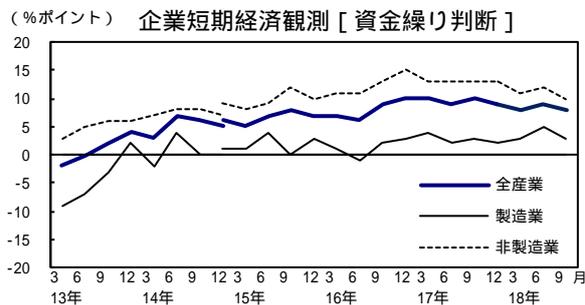
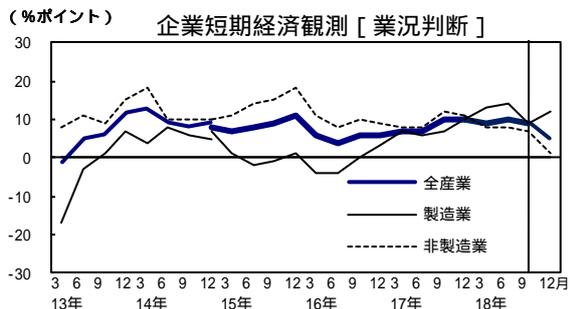
域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		4 - 6 月期	7 - 9 月期	7月	8月	9月
電子部品・デバイス	16.9	1.6	1.6	0.1	1.0	0.8
はん用・生産用・業務用機械	14.7	0.6	1.3	13.2	4.5	6.8
食料品・たばこ	10.6	2.4	3.6	0.8	5.7	1.7
情報通信機械	9.2	3.0	5.4	5.2	2.9	6.0
輸送機械	8.3	0.5	1.2	1.8	11.5	8.7
鉱工業	100.0	0.9	0.7	3.7	0.9	2.4

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 7 - 9月期、9月は速報値

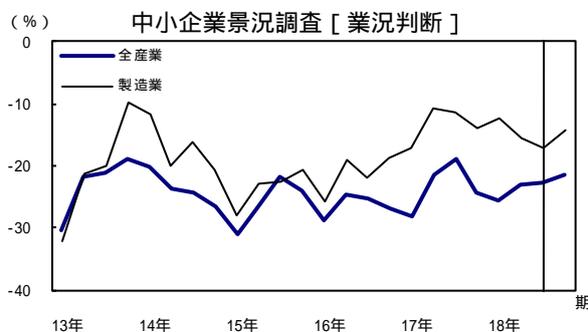
(2) 日銀短観における業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。2018年12月は予測。
2014年12月及び2017年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
2014年12月及び2017年12月は新・旧基準を併記。

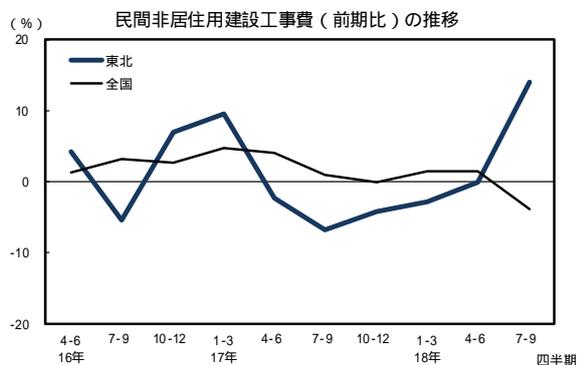


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。2018年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「東北地区における生コンの上半期出荷実績は前年比92.6%であり、減少幅が拡大している(窯業・土石製品製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は大幅に増加している。



企業短期経済観測調査[設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	2017年度実績	2018年度計画
全産業	5.2	12.6(3.8)
製造業	7.6	14.8(5.1)
非製造業	2.1	10.0(2.3)

(備考) ()は前回(6月)調査比修正率。

- (備考) 1. 季節調整値。
2. 2018年4-6月期以降は国土交通省「建設統計月報」の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

(2) 東北

2. 需要の動向

(1) 個人消費は底堅く推移している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

7月は前月比0.8%増、8月は同1.7%減、9月は同1.1%増となった。

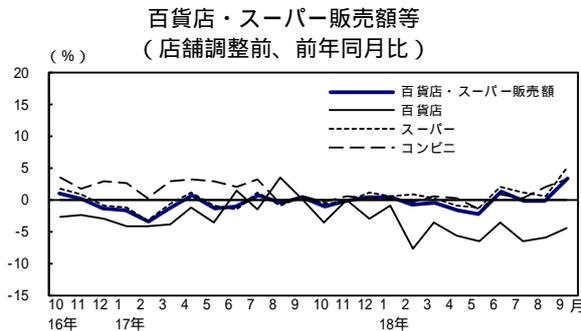
百貨店・スーパー販売額

百貨店は、7月は、売り場面積の減少により、衣料品、飲食料品共に減少したことから前年を下回った。8月は、引き続き、売り場面積の減少などにより衣料品が減少したことから、前年を下回った。9月は、引き続き売り場面積の減少の影響があったことから、前年を下回った。

スーパーは、7 - 9月期は、衣料品、飲食料品共に前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (10月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「3か月前との比較では、食料品を中心に販売量、単価共に上昇傾向にある。一方、衣料品は回復基調にあるものの、気温の変動などに左右されるため、大きな改善はみられていない (百貨店)」などの回答がみられた。

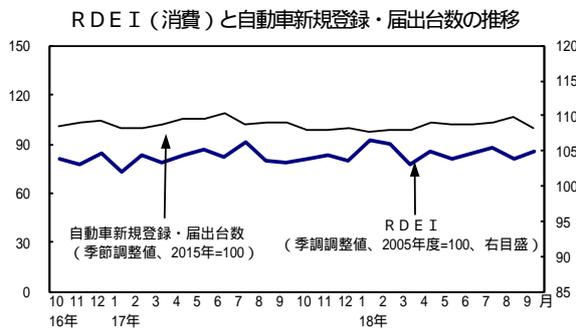


	2018年7-9月	2018年7月	8月	9月
RDEI (消費*1)	0.3	0.8	1.7	1.1
百貨店・スーパー(*2)	0.8	0.2	0.4	3.3
百貨店(*2)	5.8	6.7	5.9	4.6
スーパー(*2)	2.1	1.2	0.5	4.8
コンビニ(*2)	1.7	0.3	2.0	3.1
乗用車(*3)	0.3	1.5	2.8	3.9
(季節調整値)(*3)	0.4	0.7	3.1	6.0

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

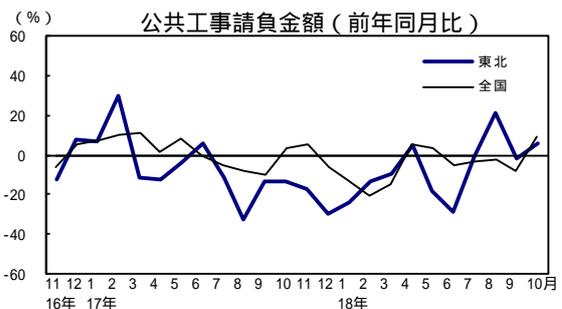
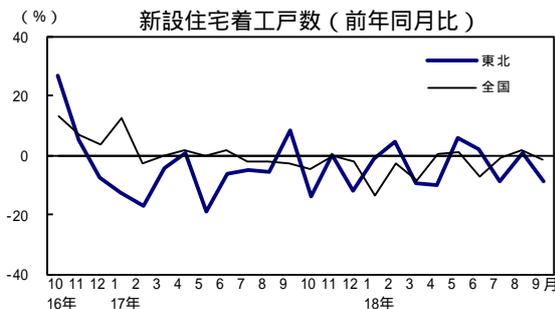
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は前年に比べて減少している。

貸家、分譲が前年を下回ったことから、全体では減少している。

(3) 公共投資は2018年度累計で見ると前年度を下回っている。

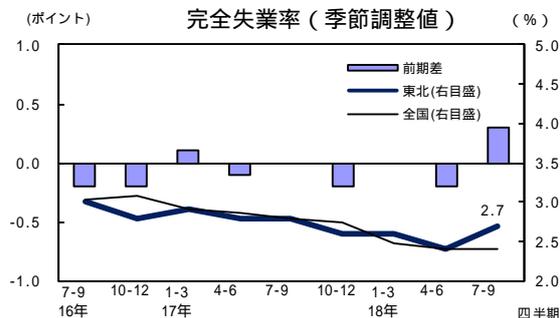
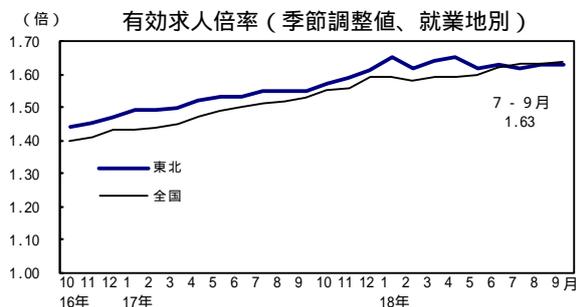


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前期を上回っている。



景気ウォッチャー調査 (10月調査結果)[雇用関連(現状)]

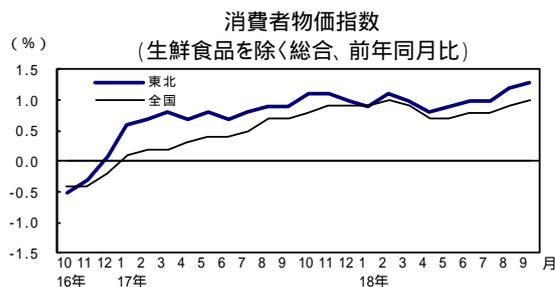
「人手不足を理由とした店舗閉鎖に伴う離職者が発生しているが、雇用の受け皿が広がってきているのか、短期間で再就職者が多い(職業安定所)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数、負債総額ともに増加している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	2017年 10-12月	2018年 1-3月	4-6月	7-9月	2018年10月
倒産件数 (前年比)	90 0.0	80 15.9	103 25.6	94 14.6	25 13.6
負債総額 (前年比)	250 43.6	167 11.3	146 16.3	186 36.6	30 44.4



景気ウォッチャー調査 (季節調整値)

